

土木工事検査書類作成マニュアル

平成30年4月

横浜市道路局

目 次

1	検査に必要な書類一覧表	1
2	施工計画書作成の要点と例	2
3	監督員指示書について	15
4	使用材料承諾願(例)	21
5	使用材料数量表(例)	22
6	工事出来高数量計算書について	23
7	出来形管理関係	24
	(1)出来形管理表	25
	ア 車道舗装工(例)	25
	イ L形側溝工(例)	26
	(2)検査合格判定表(出来形)	27
	ア 路床改良掘起し検査合格判定表(出来形)(例)	27
	イ 路盤掘起し検査合格判定表(出来形)(例)	28
	ウ 抜取りコア検査合格判定表(出来形)(例)	29
	(3)路面の平坦性試験について	30
8	品質管理関係	31
	(1)アスファルト混合物温度管理表(例)	32
	(2)レディーミクストコンクリートの品質管理表(例)	33
	(3)検査合格判定表(品質)	34
	ア 路床改良検査合格判定表(品質)置換工法(例)	34
	イ 路床改良検査合格判定表(品質)安定処理工法(例)	35
	ウ 路盤締固め度検査合格判定表(品質)(例)	36
	エ 合材締固め度検査合格判定表(品質)(例)	37
	オ 合材抽出アスファルト量・粒度検査合格判定表(品質)(例)	38
9	発生土・廃材関係で検査に必要な書類について	39
10	月報(例)	41
11	材料納入集計表(各材料伝票の頭につける)(例)	42
12	検査に必要な図面について	43
13	工事台帳(作成例)	44

1 検査に必要な書類一覧表（舗装工事の例）

（ 工事： 工事以外の市単独工事
 工事： 国庫補助工事 ）

項 目		工 事	工 事
施工計画書		検	検
監督員指示書		検	検
工事数量計算書		検	検
使用材料承諾願		検	検
使用材料数量表		検	検
各種配合設計書・成績表等		検	検
検査に必要な図面			
	管理位置図（検査合格判定に関する位置）	検	検
	平面図・縦断図・横断図・構造図・出来形図等	検	検
出来形管理	出来形管理表（丁張り・寸法管理）	検	検
	その他の管理データ	検	検
	検査合格判定表（出来形）		
	路床改良掘起し検査合格判定表	検	検
	路盤掘起し検査合格判定表	検	検
	抜き取りコア検査合格判定表	検	検
	路面の平坦性	検	検
品質管理	A s 混合物日常管理報告書	検	検
	品質管理表		
	（ A s 温度管理表 ）	検	検
	（ レディーミクストコンクリート各試験管理 ）	検	検
	その他の管理データ	検	検
	検査合格判定表（品質）		
	路床改良検査合格判定表 置換工法	検	検
	路床改良検査合格判定表 安定処理工法	検	検
	下層路盤締固め度検査合格判定表	検	検
	上層路盤締固め度検査合格判定表	検	検
合材締固め度検査合格判定表	検	検	
	抽出アスファルト量・粒度検査合格判定表	検	検
発生土・廃材関係の処理		検	検
月報		—	検
各種伝票（材料納入集計表）		—	検
工事写真		検	検
工事現場等における施工体制の点検（注）		監	監
工事台帳		監	監

- : 添付の必要なし。
 監 : 監督員が確認する。
 検 : 監督員・検査員が確認する。
 (注) : 検査員は監督員の点検結果について確認する

2 施工計画書作成の要点と例

施工計画書は請負人が実施する工事の手法の概要を監督員に知らしめることにより円滑な工事の促進を図るもので、土木工事共通仕様書の1-1-4 施工計画書で規定しており次の事項について記載する。

- (1) 工事概要
- (2) 計画工程表
- (3) 現場組織表
- (4) 安全管理（安全訓練等の実施を含む）
- (5) 主要船舶・機械
- (6) 主要資材
- (7) 施工方法（主要機械，仮設備計画，工事用地等を含む）
- (8) 施工管理計画
- (9) 緊急時の体制及び対応
- (10) 交通管理
- (11) 環境対策
- (12) 現場作業環境の整備（現場環境改善計画を含む）
- (13) 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処分方法
- (14) その他

※ 作成上の注意

- 1 工事の種類、規模、工期等により(1)～(14)について必要のないものは省略することができる。（作成例とは順番は一致しません。）
- 2 重要な変更及び新工種等が生じた場合は、変更施工計画書を作成して提出する。
- 3 作成例は標準的なものであり、内容に応じて様式を工夫して作成してよい。
- 4 2部作成して監督員に提出し、その内1部は監督員の受取印を押印後戻してもらい、しゅん功書類とする。
- 5 しゅん功書類には別冊とし添付すること。

(例)

受取印

施 工 計 画 書

工 事 名

〇〇区〇〇町地内〇〇工事

平成〇〇年〇〇月

〇〇建設株式会社

目 次

- 1 工事概要
- 2 現場組織表
- 3 使用機械
- 4 使用材料
- 5 施工方法
- 6 施工管理計画
- 7 緊急時の体制
- 8 交通管理
- 9 安全管理
- 10 仮設備計画
- 11 環境対策
- 12 現場環境改善計画
- 13 再生資源活用計画
- 14 工程表
- 15 その他

1 工 事 概 要 (例)

工 事 名

区 町地内 工事

工事場所

区 町 番地先

工 期

自 平成 年 月 日
至 平成 年 月 日

請負金額

¥

円

発 注 者

横浜市道路局 部 課

監 督 者

〇〇区 土木事務所

請 負 人

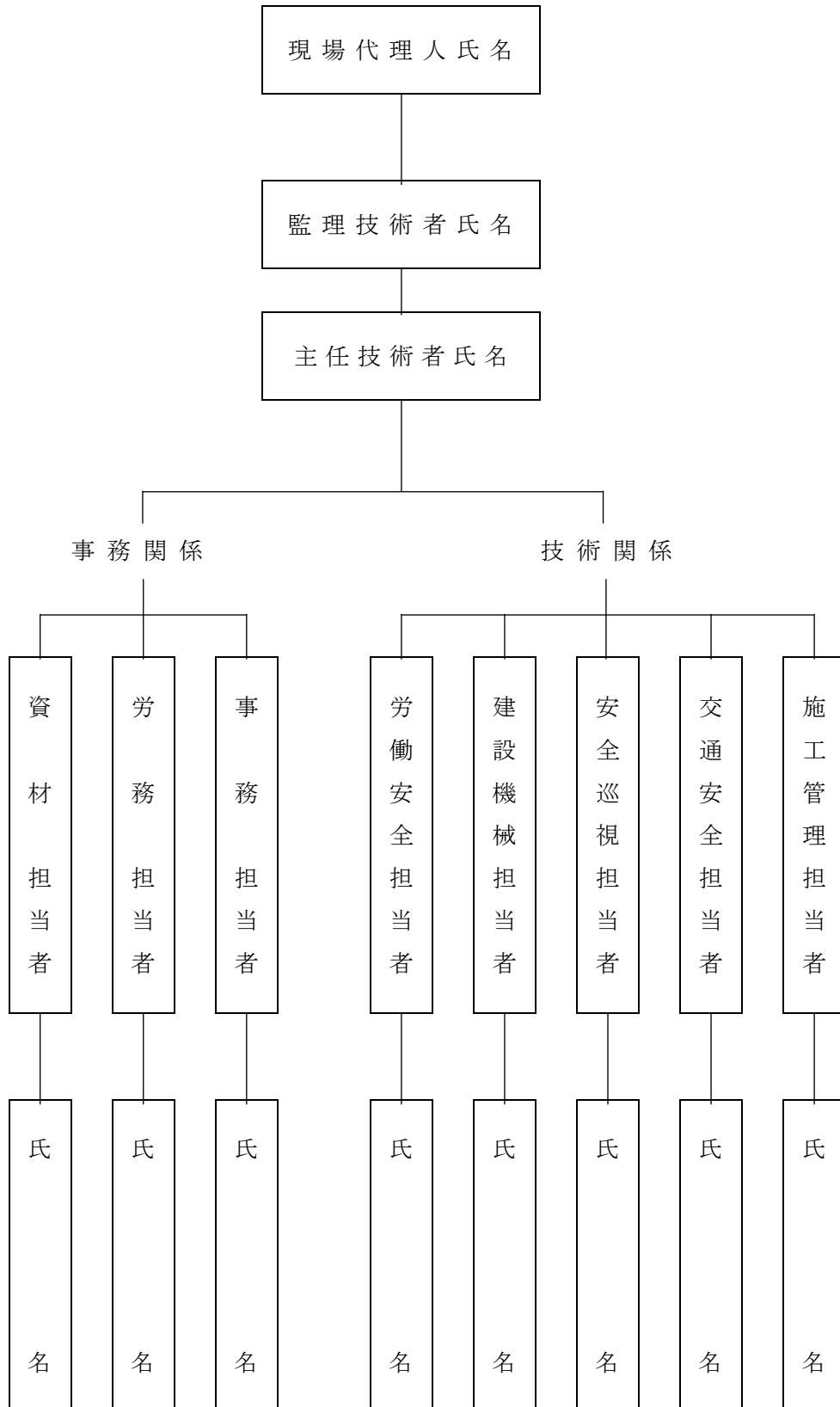
建設株式会社

工 事 内 容 (例)

工 種	細 別	単 位	数 量	摘 要
準 備 工				
舗装切断工	As t=10 cm	m	1,178	
舗装版取壊し工	As t=10 cm 人カ	m ²	101	
土 工・運 搬 工				
掘 削 工	0.35BH ヲキ	m ³	97	
〃	ヲキ床堀	m ³	0.7	
埋め戻し工	人カ	m ³	49	
発生土運搬工	2t-2 km 10t-10 km	m ³	159	
廢材運搬工	As 2t-2 km 10t-10 km	m ³	57	
〃	As 2t-2 km 10t-10 km	m ³	71	
〃	Co 2t-2 km 10t-10 km	m ³	3.6	
舗 装 工(車 道)				
急速施工	t =80 cm	m ²	2,288	

※ 細別については、請負人の施工する内容で記入する。

2 現場組織表（例）



3 使用機械（例）

機 械 名	規 格	台 数	備 考
バックホウ	0.6 m ³	1	排出ガス対策型
ジャンボブレーカ	0.6 m ³	1	〃
ブルドーザ	3 t級	1	〃
タイヤローラ	8～20 t	1	〃
マカダムローラ	10～12 t	1	〃
Asファイニッシャ	2.4～5 m級	1	〃

※ 設計図書に指定された機械はそのまま記入し、その他については請負人が使用する機械を記入する。

4 使用材料

使用材料承諾願による。

5 施工方法（要点）

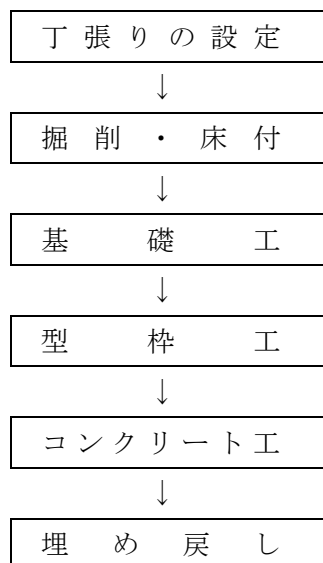
施工方法で記載すべき内容としては下記のものがある。

- (1) 準備に関する事項
- (2) 関係法規等の制約条件で重要なもの（作業時間、交通規制等）
- (3) 「工種」ごとの作業手順、施工実施上の管理項目等
- (4) 指定仮設、または重要な仮設工に関するもの
- (5) 仮置場等の位置、構造

「工種」の記載に当たっては原則として作業手順、施工実施上の管理項目についての要点を簡潔に記載する。ただし、下記事項については現場条件を考慮して「工種」ごとに施工条件、作業手順、使用機械、施工実施上の管理項目等について具体的に記載する。また、除草等の軽微なものは省略できる。

- (1) 設計図書で指定された工法
- (2) 土木工事共通仕様書に記載されていない特殊工法
- (3) 施工条件明示項目で、その対応が必要とされてる事項
- (4) 特殊な立地条件での施工や、関係機関及び第三者対応が必要とされる施工

（例）



指定仮設又は重要な仮設工についても上記に準じ記載を行う。

6 施工管理計画（例）

現場においては、起終点、変化点及び各No点ごと、または人孔にあつては全数の管理を行いそのうちから検査に必要な管理の位置は次により実施し、出来形図・出来形管理表等を作成し、工事写真を撮影します。

出来形管理・写真管理

工 種	測定項目	出来形管理位置	写真管理位置
土工	基準高 幅 のり長	No 1、3、5	No 1、3、5
L形側溝工	基準高 幅 厚さ	No 2、4、6	No 2、6
下層路盤工	基準高 幅 厚さ	No 1、3、5	No 1、3、5
人孔築造工	基準高 幅 厚さ 高さ	全数	A人孔 (3箇所につき1箇所)

品質管理

- (1) アスファルト合材温度管理を実施します。
- (2) レディーミクストコンクリート（スランプ、空気量、塩分含有量、圧縮強度）

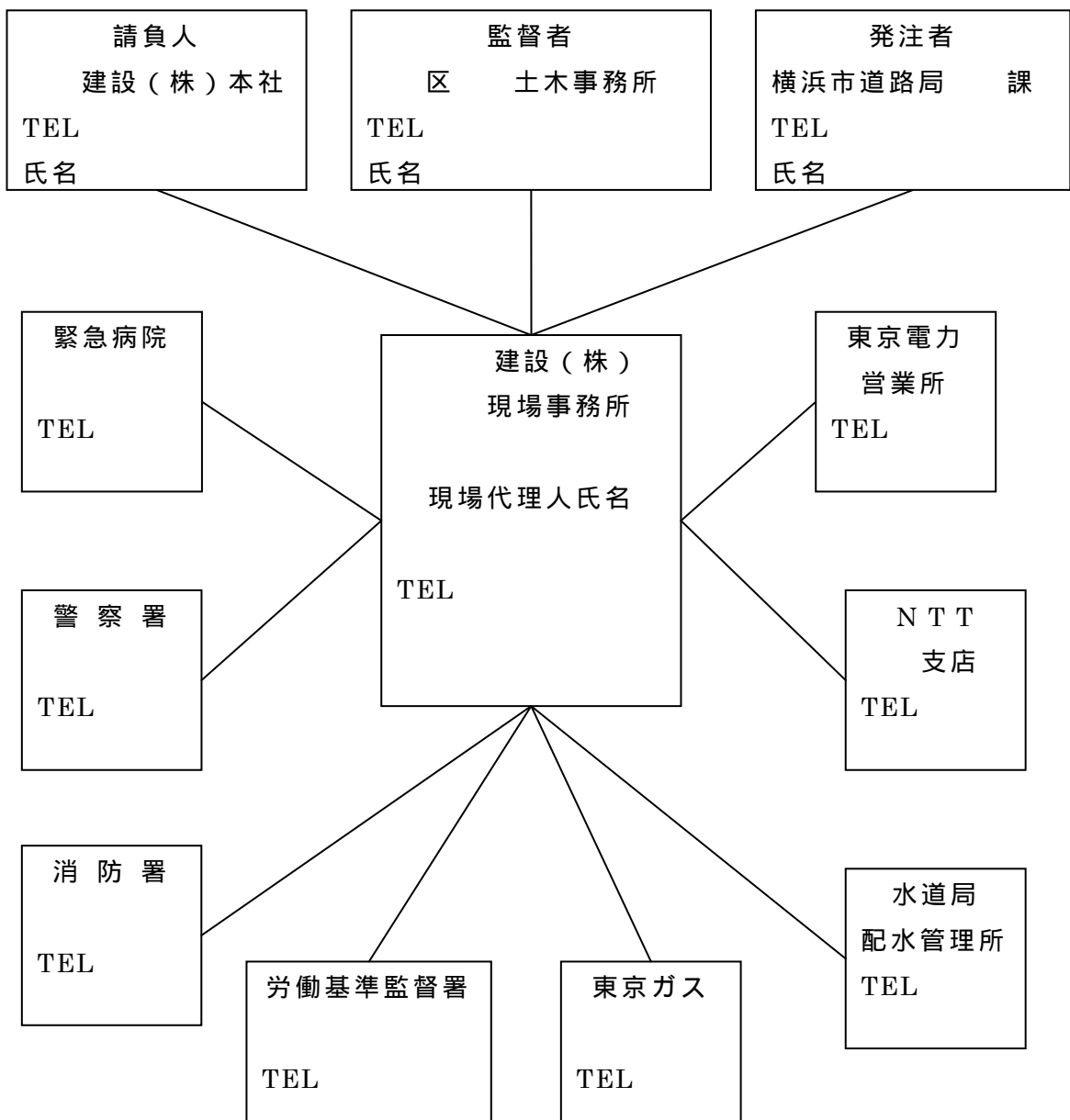
○ 回

7 緊急時の体制 (例)

大雨、強風等の異常気象で、災害発生のおそれがある場合には工事を中止し、現場の整理を行います。必要に応じて現場内のパトロールを行い警戒に当たります。

なお、緊急の連絡は次の通りです。

緊急連絡系統図



8 交通管理（要点）

- (1) 工事に伴う交通処理及び交通対策については、道路協議書を遵守する。
- (2) 保安施設設置図を必ず添付する。
(迂回路を設ける場合には、迂回路の図面及び安全施設、案内標識の配置図面並びに交通誘導警備員等の配置について記載する)

9 安全管理（要点）

安全管理に必要なそれぞれの責任や組織づくり、活動方針を記載する。

(1) 工事安全管理対策

- ア 安全管理組織（現場パトロールの体制及び保安要員）
- イ 危険物を使用する場合は、保安及び取り扱いについて
- ウ その他必要事項

(2) 第三者施設への安全管理対策

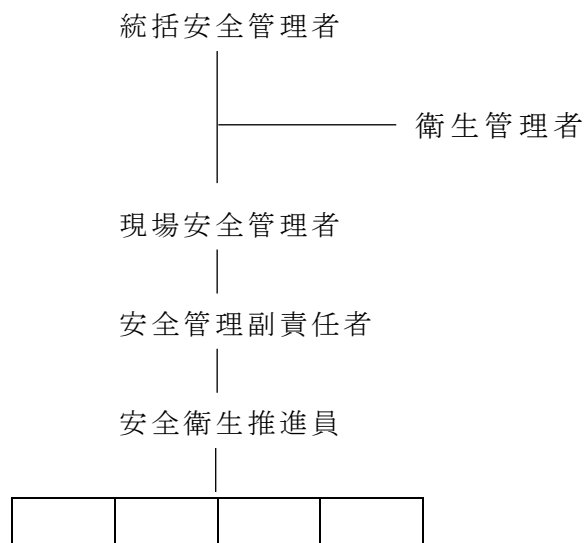
家屋、商店、鉄道、ガス、電気、電話、水道等の第三者施設と接近して工事を行う場合の安全対策

(3) 工事安全教育及び訓練についての活動計画

安全管理活動として実施予定のものについて参加予定者、開催頻度等を記入する。

安全・訓練等の実施状況の記録及び報告

(例) 工事安全管理対策



10 仮設備計画 (要点)

工事全体に共通する仮設備の配置計画等について、位置図、概略図等を用いて具体的に記載する。

工事に直接関係する仮設工、工事用道路の直接仮設備は施工方法で記載し、ここでは下記の間接的設備について記載する。

- (1) 監督員詰所、現場事務所、作業員宿舎、倉庫等の仮設建物
- (2) 材料、機械等の仮置場
- (3) 工事施工に必要なプラント等の機械設備
- (4) 運搬路（仮道路、仮橋、現道補修等）
- (5) 仮排水
- (6) 工事標示板、安全看板、立入防止柵、安全管理に関する仮設備
- (7) その他

11 環境対策 (要点)

近隣の住宅、病院、学校等の環境の保全のための対策について必要により記載する。

- (1) 発生土、廃材運搬経路図を必ず添付する。
- (2) 騒音、振動対策
- (3) 水質汚濁
- (4) ごみ、ほこりの処理
- (5) 苦情等の処理
- (6) 事業損失防止対策（家屋調査地下水の観測等）
- (7) その他

12 現場環境改善計画 (要点)

土木工事標準積算基準書に基づき、現場環境改善に対する具体的な実施内容について記載する。なお、現場環境改善の実施内容は監督員と協議し、仮設備、営繕施設、安全施設のイメージアップ及び地域とのコミュニケーション等に関するものを対象とする。

13 再生資源活用計画（要点）

資源の有効な利用の促進に関する法律第10条関係省令第8条第1項及び法律第18条関係省令第7条第1項に定める規模以上の場合、計画書及び実施書の写しを添付する。

- (1) 再生資源利用計画書（実施書）
- (2) 再生資源利用促進計画書（実施書）

14 工 程 表 （ 要 点 ）

- (1) 工事内容に応じた方式（ネットワーク又は、バーチャート等）により計画工程表を作成する。
- (2) 工事進捗と共に実施工程表を別途作成する。（計画工程表に実施工程を朱書きしてもよい）
- (3) サイズはフリーとし、施工計画書の最終頁に袋を綴り中にいれる。

15 そ の 他

その他重要な事項について、必要により記載する。

3 監督員指示書について

監督員の指示の内容にはいろいろなケースが考えられるが、ここでは工事の契約内容が変わる設計変更や、土木工事施工管理基準等に基づく指示のことである。

次のような場合には、監督員から指示書を受け取り検査時に添付すること。

(1) 工事の契約内容が変わる場合

工種、形状、構造、工法、数量等の変更は、指示書を必ず受け取ること。

(2) 土木工事施工管理基準に基づく場合(監督員から任意の位置を指示されたとき)

ア 道路土工の品質管理位置の指示書を受け取る。

現場密度または飽和度(粘質土)の試験は、試験回数が施工量により決定されるので、試験回数を確認し指示書を受け取る。

イ 舗装工の出来形管理の掘起し位置、コアの抜き取り位置の指示書を受け取る。

指示事項 (例)		測定項目
車 道	路床改良掘り起し	厚さ測定
	上・下層路盤掘り起し	厚さ測定
	As 安定処理	コア厚さ測定
	表層・基層	コア厚さ測定
歩 道	路盤掘り起こし	厚さ測定
	表 層	コア厚さ測定

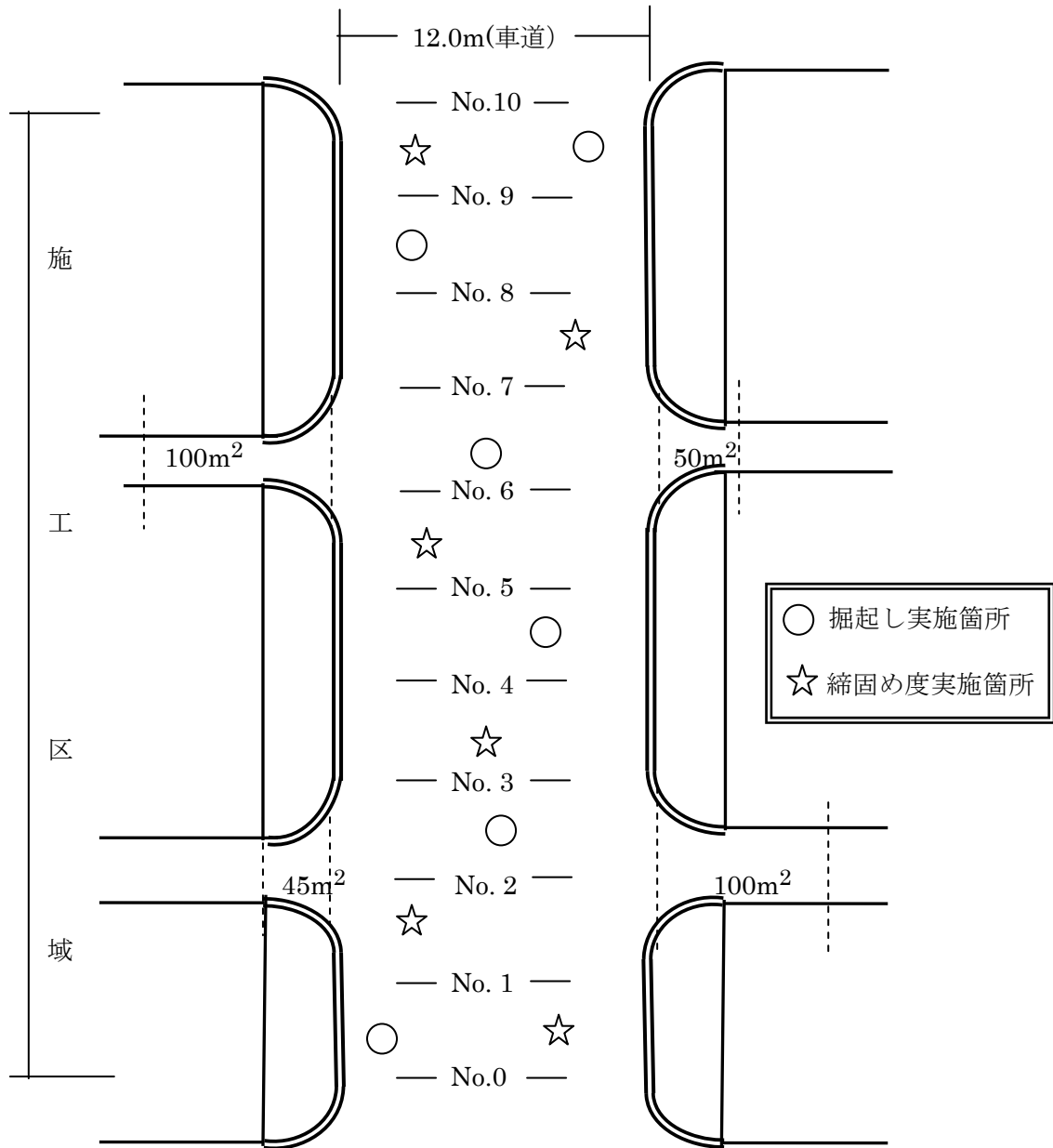
ウ 舗装工の品質管理位置の指示書を受け取る。

指示事項 (例)		試験 (測定) 種目	
車 道	路床改良	安定処理工法	C B R 試験
		置換工法	締め固め度試験
	下層路盤	締め固め度試験	
	上層路盤	締め固め度試験	
道	As 安定処理	締め固め度試験 (コア)	
		抽出試験 (コア)	
表層・基層		締め固め度試験 (コア)	
		抽出試験 (コア)	

- (3) 土木工事施工管理基準等に管理の方法が明記されていない場合
特記仕様書等でも管理方法が明記されていない場合は、監督員と協議し、その管理方法について指示を受けるか、施工計画書に明記する。
- (4) 土木工事施工管理基準に基づく任意の位置の箇所例
- ア 車道路盤の掘り起こし・締固め度試験箇所例
 - イ 車道コアの厚さ・締め固め度・抽出試験箇所例
 - ウ 歩道路盤の掘起し箇所例
 - エ 歩道コアの厚さ試験箇所例

ア 車道路盤の掘起し・締固め度試験箇所例

《本線 C交通 表5、基5、安10、上路15、下路15》
 《取付道路 L交通 表5、上路10、下路10》



掘起し実施回数 6回 (上・下層路盤同じ)

締固め度実施回数 6回 (上・下層路盤同じ)

車道面積 $12 \times 200 = 2400 \text{ m}^2$ … 1500 m^2 以上 3000 m^2 未満なので6回実施する。

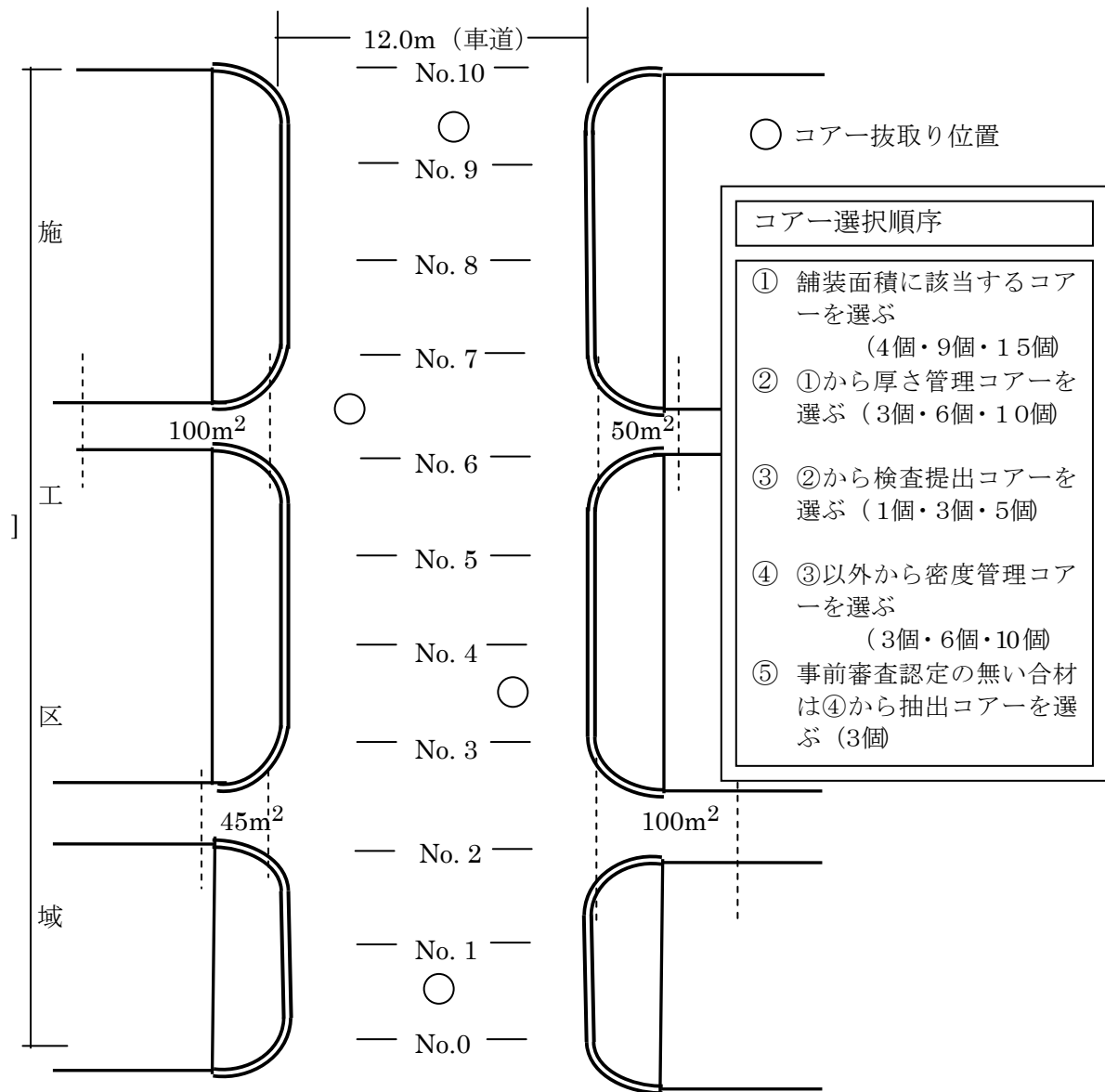
$2400 \text{ m}^2 \div 6 \text{ 回} = 400 \text{ m}^2/\text{回}$ … おおよそ 400 m^2 ごとにバランスよく箇所を選定する。

取付道路面積 $45 + 100 + 100 + 50 = 295 \text{ m}^2$ … 300 m^2 未満なので省略する。

注 舗装構成又は路盤材の種類が異なるところは、それぞれで管理する。
 ただし、それぞれの面積が 300 m^2 未満は省略することができる。

イ 車道コアの厚さ・締固め度・抽出試験箇所例

《本線 C交通 表5、基5、安10、上路15、下路15》
 《取付道路 L交通 表5、上路10、下路10》



コア総数 4本、車道面積 $12 \times 200 = 2400 \text{ m}^2$

2400 m^2 は 500 m^2 以上 3000 m^2 未満なのでコアの抜取り 3本 + 1本 = 4本 (認定書無)

$2400 \text{ m}^2 \div 4 \text{ 本} = 600 \text{ m}^2/\text{本}$ ・・・おおよそ 600 m^2 ごとにバランスよく箇所を選定する。

取付道路面積 $45 + 100 + 100 + 50 = 295 \text{ m}^2$ ・・・ 500 m^2 未満なので省略する。

厚さの管理は 2400 m^2 なので3本で実施する。

締固め度の管理は 2400 m^2 なので3本で実施する。

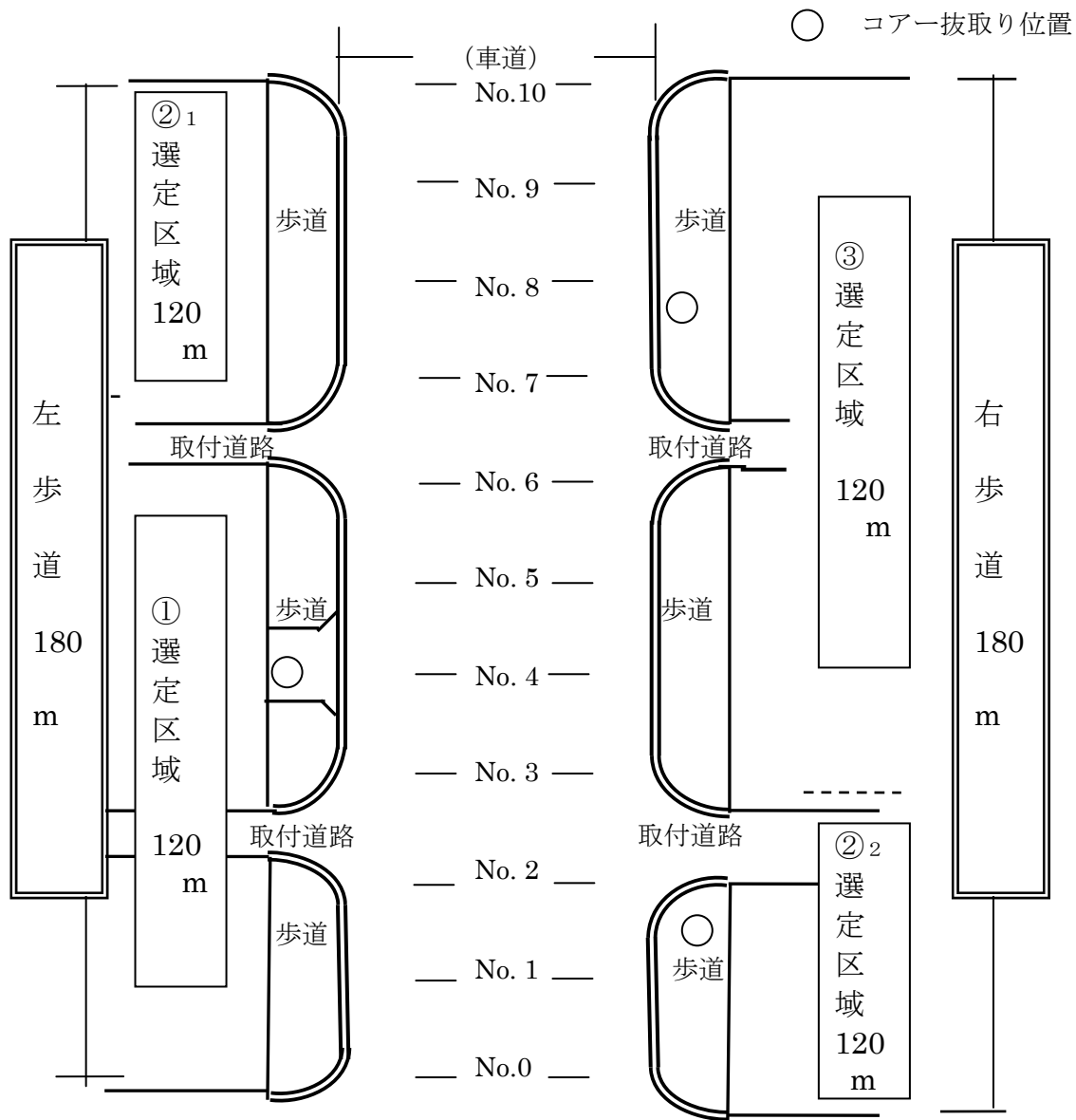
As量,密度の抽出は面積に関係なく3本で実施する。(認定書の無い合材のみ)

検査提出コアは 2400 m^2 なので1本、厚さ管理したものを提出する。

注 舗装構成の異なるところは、それぞれで管理する。

ただし、それぞれの面積が 500 m^2 未満は省略することができる。

ウ 歩道路盤の掘起し箇所例



掘起し実施回数 3回

取付道路を除いた総延長は 360m(左右の歩道を一本の直線と考える)

$360\text{m} \div 120\text{m} = 3.0$ (端数が生じた場合は切り上げ) … 3回実施する。

$360\text{m} \div 3\text{回} = 120\text{m/回}$ … おおよそ 120m ごとにバランスよく箇所を選定する。

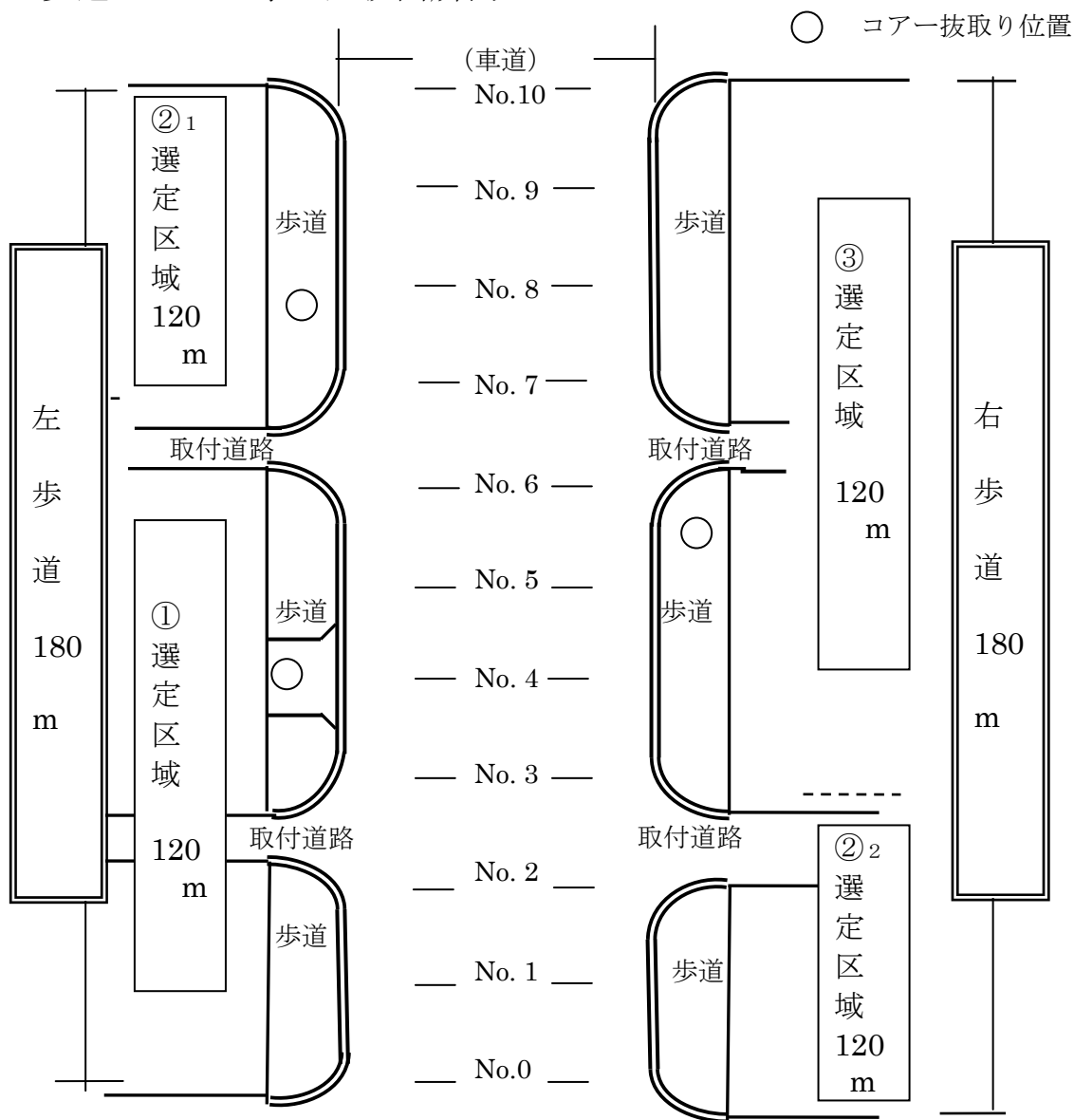
※ 左右の歩道幅員が違っていても、延長を合計し 120m ごとに選定する。

実施回数が 1 回の場合は規格値の範囲以内、2 回以上の場合はその平均値が設計値以上 (平均値は 120m ごとのため X_3 , X_6 , X_{10} とは限らない)

注 舗装構成にかかわらず、120m ごとに行う。

ただし、総延長が 60m 未満は省略することができる。

エ 歩道コアーの厚さ試験箇所例



コアー総数 3本

取付道路を除いた総延長は360m(左右の歩道を一本の直線と考える)

$360\text{m} \div 120\text{m} = 3.0$ (端数が生じた場合は切り上げる)

$360\text{m} \div 3\text{本} = 120\text{m/回}$ ・・・おおよそ120mごとにバランスよく箇所を選定する。

※ 切下げ部があっても、延長を合計し120mごとに選定する。

抜き本数が1本の場合は規格値の範囲以内、2本以上の場合はその平均値が設計値以上(平均値は120mごとのためX3, X6, X10とは限らない)

注 舗装構成にかかわらず、120mごとに行う。

ただし、総延長が60m未満は省略することができる。

4 使用材料承諾願（例）

平成 年 月 日

〇〇土木事務所
監督員

様

請負人 〇 〇 〇 建設（株）
現場代理人 〇 〇 〇 〇 印

工 事 名

次の材料を使用したいので承諾願います。

材 料 名	規 格	生 産 社 名 (会社名及び工場名又は産地)	承 諾 方 法
生コンクリート（高炉）	18-8 W/C 比 60%以下	〇〇コンクリート(株) 〇〇工場	配合報告書
生コンクリート（高炉）	24-8 W/C 比 55%以下	〇〇コンクリート(株) 〇〇工場	配合報告書
粒度調整砕石	RM-40	〇〇興産(株) 〇〇市 〇〇産	試験報告書
アスファルト合材	再生密粒度(13)	〇〇道路(株) 〇〇工場	認 定 書
再生アスファルト合材	再生粗粒度(20)	〇〇道路(株) 〇〇工場	認 定 書
歩車道境界ブロック	150/170×200×600	(株)〇〇建材店 〇〇工場	
コンクリート積ブロック	35-A種	〇〇コンクリート(株) 〇〇工場	
切 込 砕 石	RC-40	〇〇興産(株) 〇〇市 〇〇産	試験報告書
仮 設 材 (H形鋼)	H-300		
(鋼矢板)	SP-Ⅲ型		

上記の使用材料を承諾します。

平成 年 月 日
監督員

印

注

- (1) 工事に使用する材料は、使用に先立ち品名、製造会社、規格証明書、品質試験成績表、その他品質を判定できる資料を監督員へ提出する。
なお、道路構造物標準図集に記載されているブロック等で、汎用性のあるものについては、試験成績表等の提出を省略できる。
- (2) 仮設材料は、主な材料名及び規格のみを記入する。
- (3) 材料に変更がある場合には、その都度提出する。
- (4) 現場代理人、監督員の印は私印を使用する。

総括監督員	主任監督員	担 当 監 督 員

5 使用材料数量表（例）

工 事 名				
請 負 人			現場代理人	印
材 料 名	規 格	単 位	使用数量	備 考
生コンクリート（高炉）	18・8 W/C 60%以下	m ³	32.5	
生コンクリート（高炉）	24・8 W/C 55%以下	m ³	155.0	
粒度調整砕石	RM-40	m ³	62.4	
アスファルト合材	再生密粒度(13)	t	51.1	
再生アスファルト合材	再生粗粒度(20)	t	53.5	
歩車道境界ブロック	150/170×200×600	本	90	
コンクリート積ブロック	35-A種	個	390	7.4個/m ²
切 込 砕 石	RC-40(基礎用)	m ³	17.0	
切 込 砕 石	RC-40(路盤用)	m ³	92.1	

- (1) 使用数量は、納入伝票の合計を記入する。
- (2) 数量は小数点以下1位（2位を四捨五入）まで記入する。
- (3) 現場代理人の印は、私印を使用する。

6 工事数量計算書について

- (1) 請負人が作成する。
- (2) 設計計算書と同一でも良いが、請負人の名前で必ず添付する。
- (3) 工事出来形図の実測値と照合し整合性を図ること。
都市計画道路等の車道幅員、車道延長について理論値を採用しているものは、求積も理論値により算出する。
- (4) 数量の算出根拠は、設計業務数量算出基準（横浜市道路局）による。

7 出来形管理関係

- (1) 出来形管理表
 - ア 車道舗装工 (例)
 - イ L形側溝工 (例)

- (2) 検査合格判定表 (出来形)
 - ア 路床改良掘起し検査合格判定表 (出来形) (例)
 - イ 路盤掘起し検査合格判定表 (出来形) (例)
 - ウ 抜取りコアー検査合格判定表 (出来形) (例)

注：測定者名・立会者名は、必ず記入する。

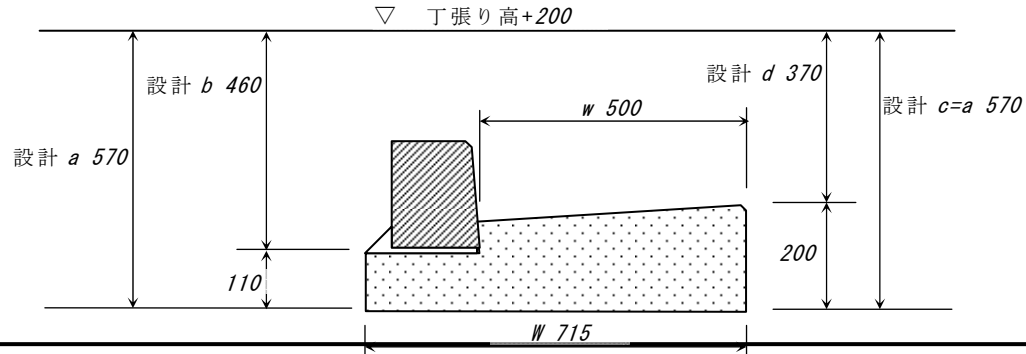
- (3) 路面の平坦性試験について

7 (1) -イ (例)

出来形管理表

工事名 _____

工種名 L形側溝工 (タイプ1) _____



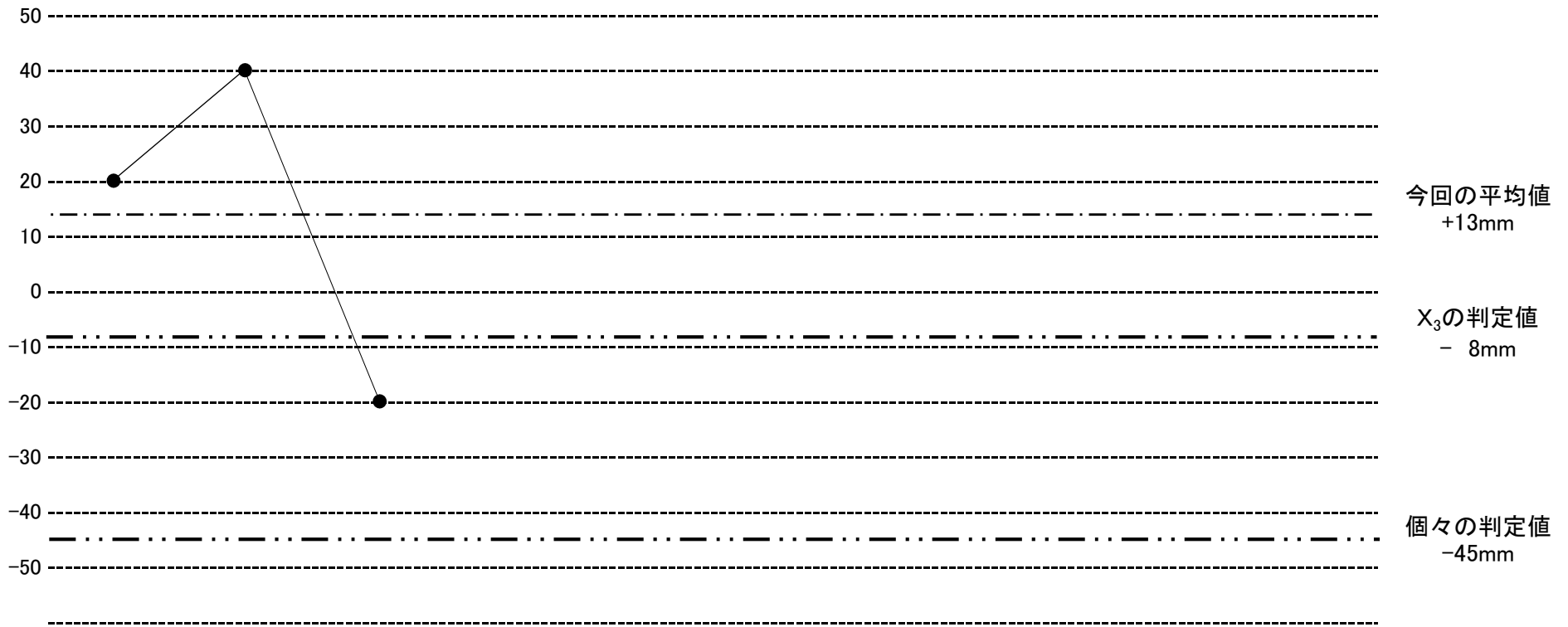
測定位置	a	b	c	d		a-b		c-d				w		W			
規格値	—	—	—	—		-20		-20				-20		-20			
測点	実測	実測	実測	実測	実測	実測	差	実測	差	実測	差	実測	差	実測	差	実測	差
No. 1(左)	575	460	575	370		115	5	205	5			505	5	725	10		
No. 3(左)	570	460	570	370		110	0	200	0			500	0	720	5		
No. 5(左)	575	465	575	370		110	0	205	5			510	10	730	15		
No. 7(左)	575	460	575	365		115	5	210	10			500	0	715	0		
No. 9(左)	575	455	575	365		120	10	200	0			505	5	725	10		

7 (2) - ア (例)

路床改良掘起し検査合格判定表(出来形)

工 事 名	
工 種 名	安定処理
設 計 厚	80cm, 測定者 現場代理人, 立会者 監督員
合格判定値	個々 -45mm以内, $X_{10} = -15\text{mm}$ 以内, $X_6 = -14\text{mm}$ 以内, $X_3 = -8\text{mm}$ 以内

測 点	NO3(R)	NO5(L)	NO7(C)								X_3
実 測	820	840	780								813
差	+20	+40	-20								+13

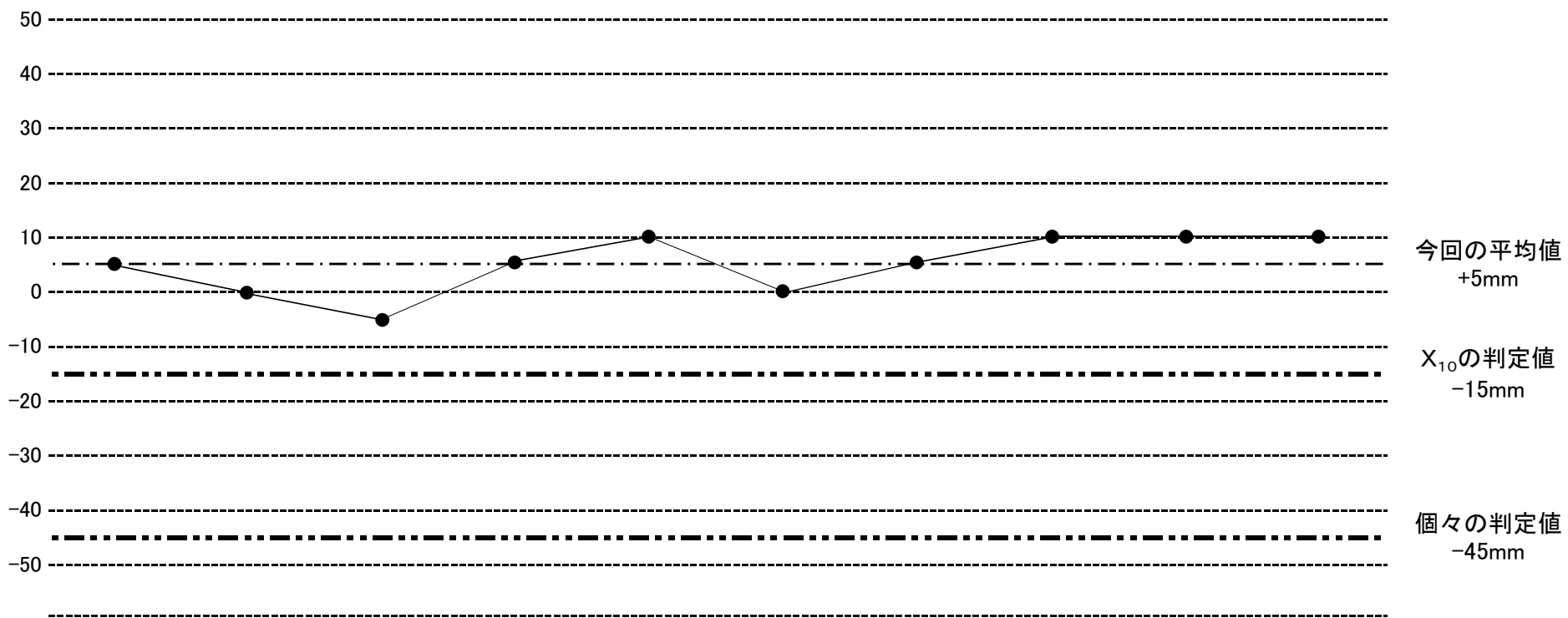


7 (2) - イ (例)

路盤掘起し検査合格判定表(出来形)

工 事 名	
工 種 名	下層路盤工(再C-40)
設 計 厚	25cm, 測定者 現場代理人, 立会者 監督員
合格判定値	個々 -45mm以内, $X_{10} = -15\text{mm}$ 以内, $X_6 =$, $X_3 =$

測 点	NO1+13(C)	NO2+5(R)	NO4+14(L)	NO5+8(L)	NO7+11(R)	NO9+14(C)	NO10+9(L)	NO11+13(R)	NO13+12(C)	NO14+15(L)	X_{10}
実 測	255	250	245	255	260	250	255	260	260	260	255
差	+5	±0	-5	+5	+10	±0	+5	+10	+10	+10	5

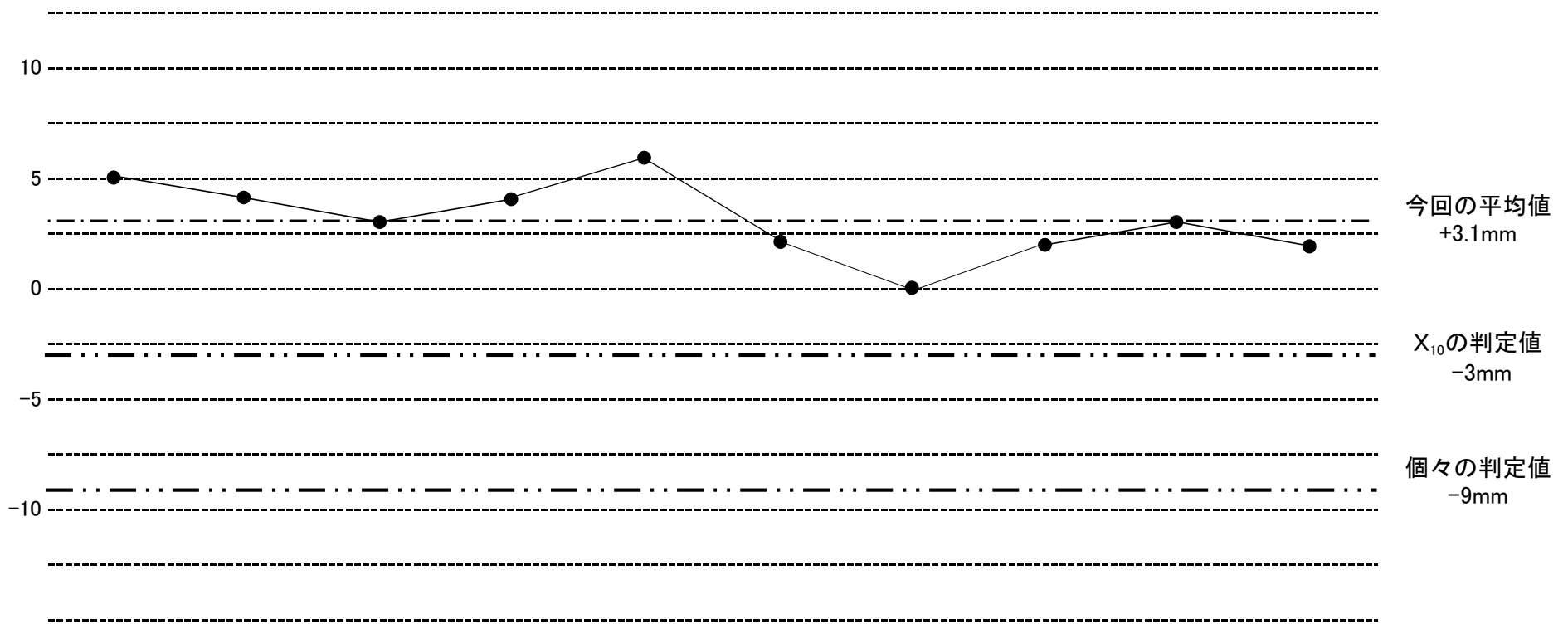


7 (2)-ウ (例)

抜き取りコア一検査合格判定表(出来形)

工事名	
工種名	基層工(粗粒度アスコン)
設計厚	5.0cm, 測定者 現場代理人, 立会者 監督員
合格判定値	個々 -9mm以内, $X_{10} = -3$ mm以内, $X_6 =$ mm以内, $X_3 =$ mm以内

測点	NO0+7(L)	NO1+15(R)	NO3+8(C)	NO5+11(R)	NO7+4(L)	NO9+5(C)	NO11+3(R)	NO12+18(L)	NO13+17(C)	NO14+15(R)	X_{10}
実測	55	54	53	54	56	52	50	52	53	52	53.1
差	+5	+4	+3	+4	+6	+2	±0	+2	+3	+2	+3.1



7 (3) 舗装工 平坦性試験について

一般的には「3 mプロフィールメーターによる方法」による。

アスファルト混合物やセメントコンクリートで舗装した車道舗装の平坦性の測定のために現場で実施する。

バス路線等の幹線道路で施工延長200 m以上について実施する。

ア 始点及び終点の位置を確認するとともに、橋梁取付部、マンホールなど平坦性測定障害となる構造物の位置を確認する。

イ 測定位置は、出来形管理や検査を目的とする場合には、車線毎に車線の中心から1 m離れた地点を結ぶ、中心線に平行する2本の線のいずれかの一方上に延長1.5 m間隔で設置された任意の地点とする。(障害物付近のデータは、除去する)

ウ 測定開始点と測定終了点の間を、通常の歩行速度で3 mプロフィールメーターを牽引し、路面の凹凸を記録する。

※ 3 mプロフィールメーターによる方法

舗装調査・試験法便覧〔第1分冊〕

第II章 調査編 2. 路面の定量調査

S028 舗装路面の平坦性測定方法……………〔1〕-147

8 品質管理関係について

- (1) アスファルト混合物温度管理表 (例)
- (2) レディーミクストコンクリートの品質管理表 (例)
- (3) 検査合格判定表 (品質)
 - ア 路床改良検査合格判定表 (品質) 置換工法 (例)
 - イ 路床改良検査合格判定表 (品質) 安定処理工法 (例)
 - ウ 路盤締固め度検査合格判定表 (品質) (例)
 - エ 合材締固め度検査合格判定表 (品質) (例)
 - オ 合材抽出アスファルト量粒度検査合格判定表 (品質) (例)

8 (1) (例)

アスファルト混合物温度管理表

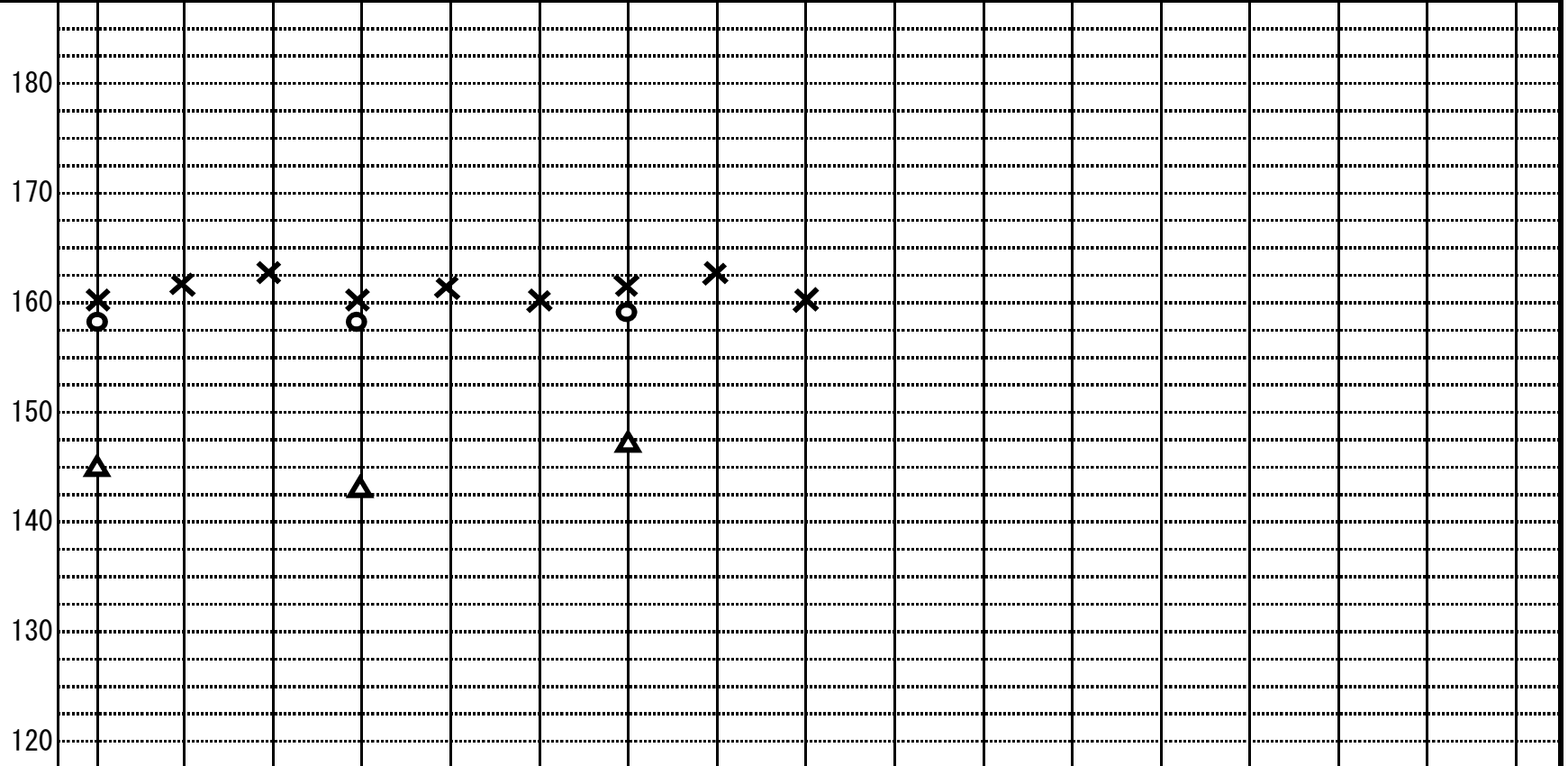
工事名

混合物の種類 密粒度 13mm

最適締固め温度： 配合設定温度 142℃～147℃

月	日	8/29																
台	数	1	2	3	4	5	6	7	8	9								
出	荷	温	度	160	161	162	160	161	160	161	162	160						
到	着	温	度	158			157			159								
転	圧	温	度	145			143			147								

温
度
(℃)



8 (2) (例)

レディーミクストコンクリートの品質管理表

工事名

【配合設計】

呼び名 : 高炉 24-8-20-BB

水セメント比 55.0%, 細骨材比46.0%, 塩化物含有量0.3kg/m³以下

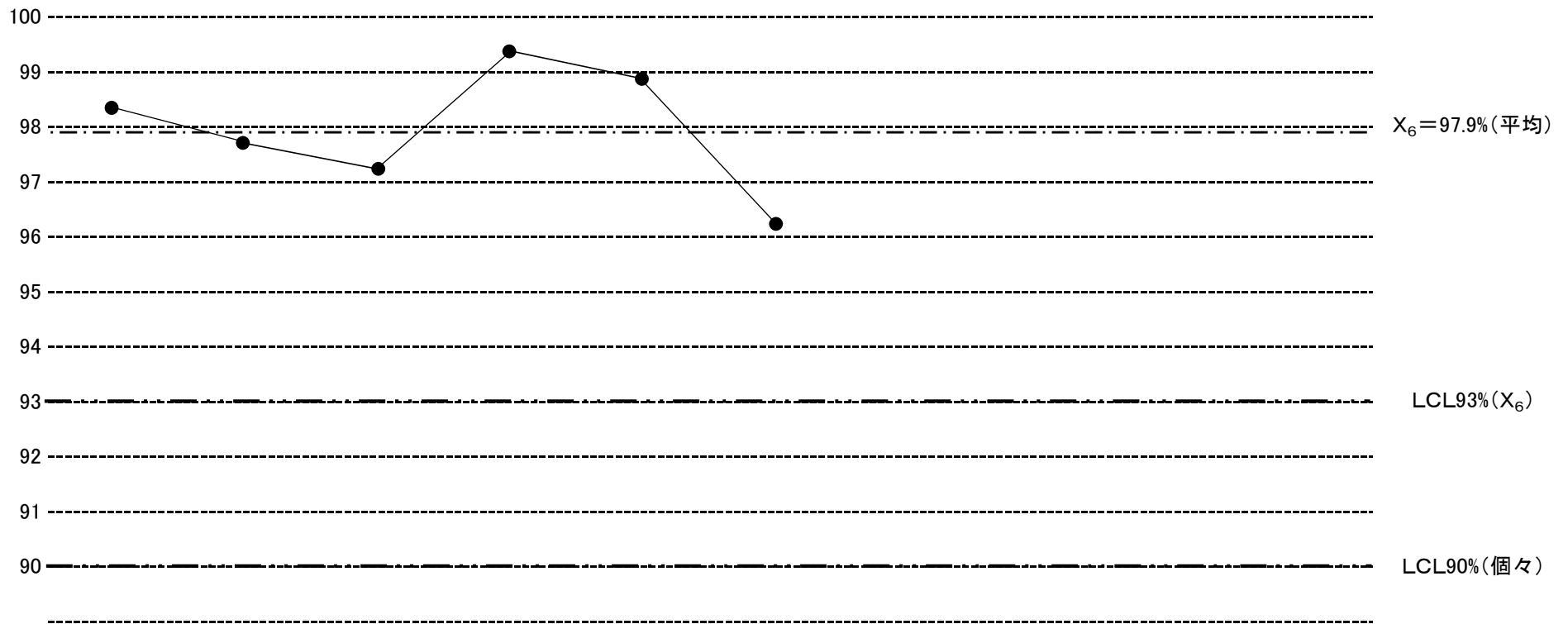
打設日	1月8日	1月11日					備考
スランプ	8.0	8.2					
空気量	4.5	5.0					
塩化物含有量	0.03	0.03					
σ7 圧縮強度	18.0	19.0					
σ28 圧縮強度	26.0	27.0					
スランプ [cm] (例)							8cm±2.5cm
空気量 [%] (例)							4.5%±1.5%
塩化物含有量 [kg・m ³] (例)							
σ7 圧縮強度 [N/mm ²] (例)							
σ28 圧縮強度 [N/mm ²] (例)							

8 (3)-ア (例)

路床改良検査合格判定表(品質)

工事名	
工種名	再C-40置換工法(砂置換法)
基準密度	配合報告書の最大乾燥密度 1.944
合格判定値	個々;基準密度の90%以上, $X_{10}=92.5\%$ 以上, $X_6=93.0\%$ 以上, $X_3=93.5\%$ 以上

測点	NO1+5(R)	NO2+15(L)	NO4+10(C)	NO6+5(R)	NO7+15(L)	NO9+10(C)					X_6
計測値	1.910	1.900	1.890	1.930	1.920	1.870					1.903
百分率	98.3	97.7	97.2	99.3	98.8	96.2					97.9

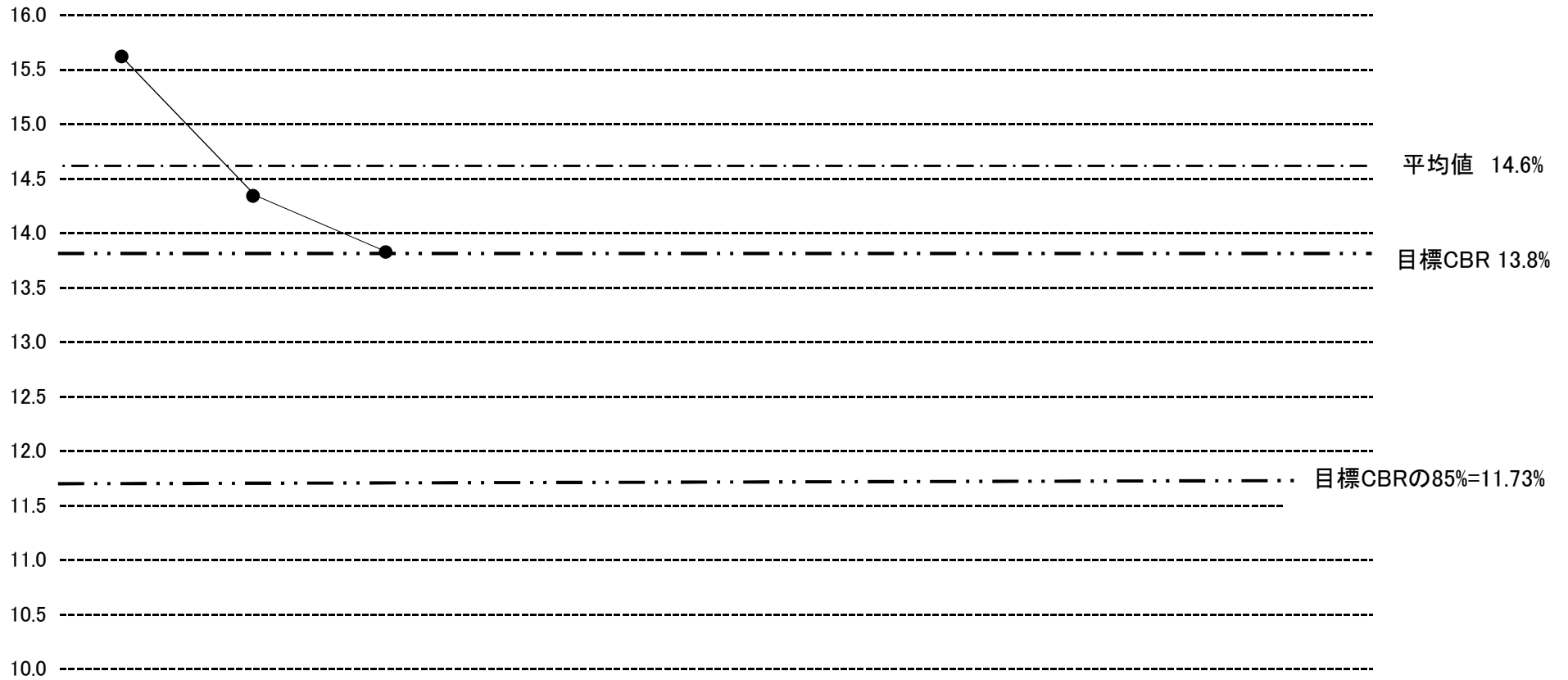


8 (3)-イ (例)

路床改良検査合格判定表(品質)

工 事 名	
工 種 名	安定処理工法(CBR試験)設計CBR 8%, 改良厚 80cm
目 標 CBR 値	13.80%
合 格 判 定 値	個々;目標CBRの85%以上, X_3, X_6, X_{10} ;目標CBR値以上

測 点	NO3(R)	NO5(L)	NO7(C)								X_3
計測値	15.6	14.3	13.8								14.6

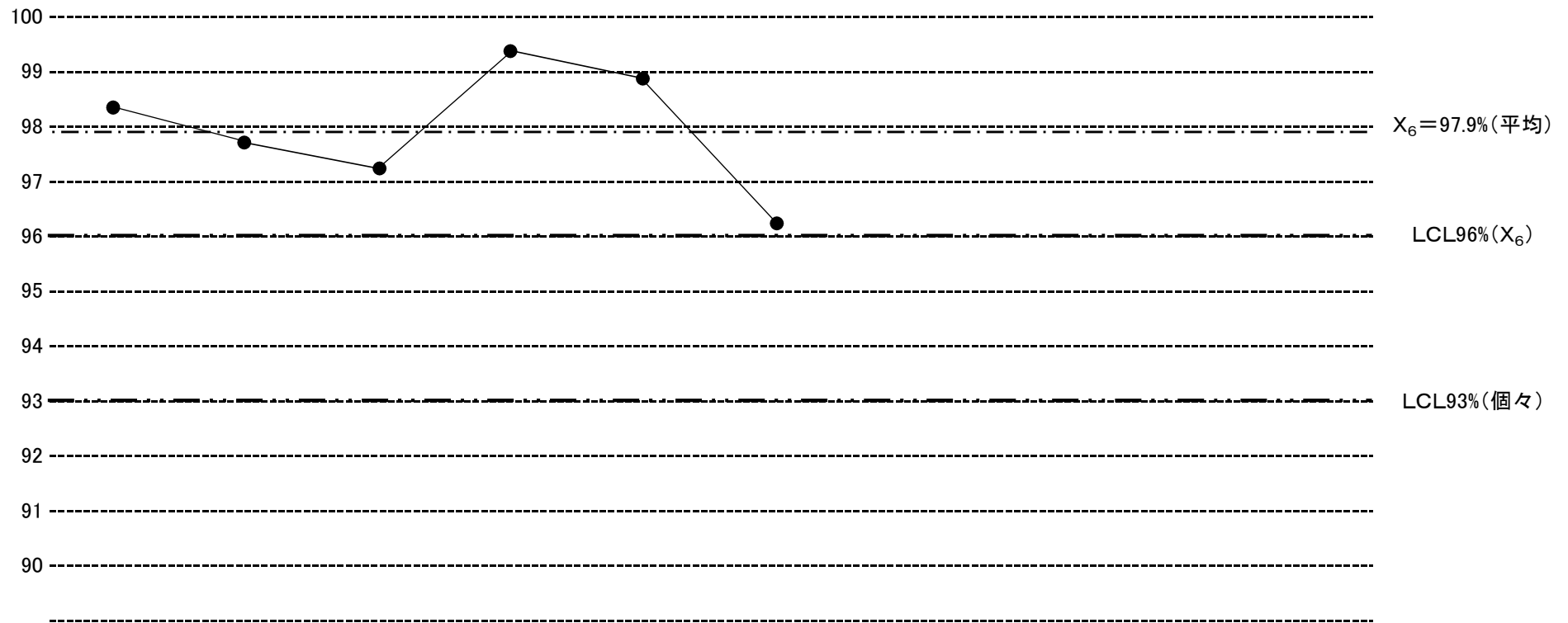


8 (3)-ウ (例)

路盤締固め度検査合格判定表(品質)

工事名	
工種名	下層路盤工(C-40) t=30cm
基準密度	配合報告書の最大乾燥密度 1.944
合格判定値	個々; 基準密度の93%以上, $X_{10} =$ %以上, $X_6 = 96%$ 以上, $X_3 =$ %以上

測点	NO1+5(R)	NO2+15(L)	NO4+10(C)	NO6+5(R)	NO7+15(L)	NO9+10(C)					X_6
計測値	1.910	1.900	1.890	1.930	1.920	1.870					1.903
百分率	98.3	97.7	97.2	99.3	98.8	96.2					97.9

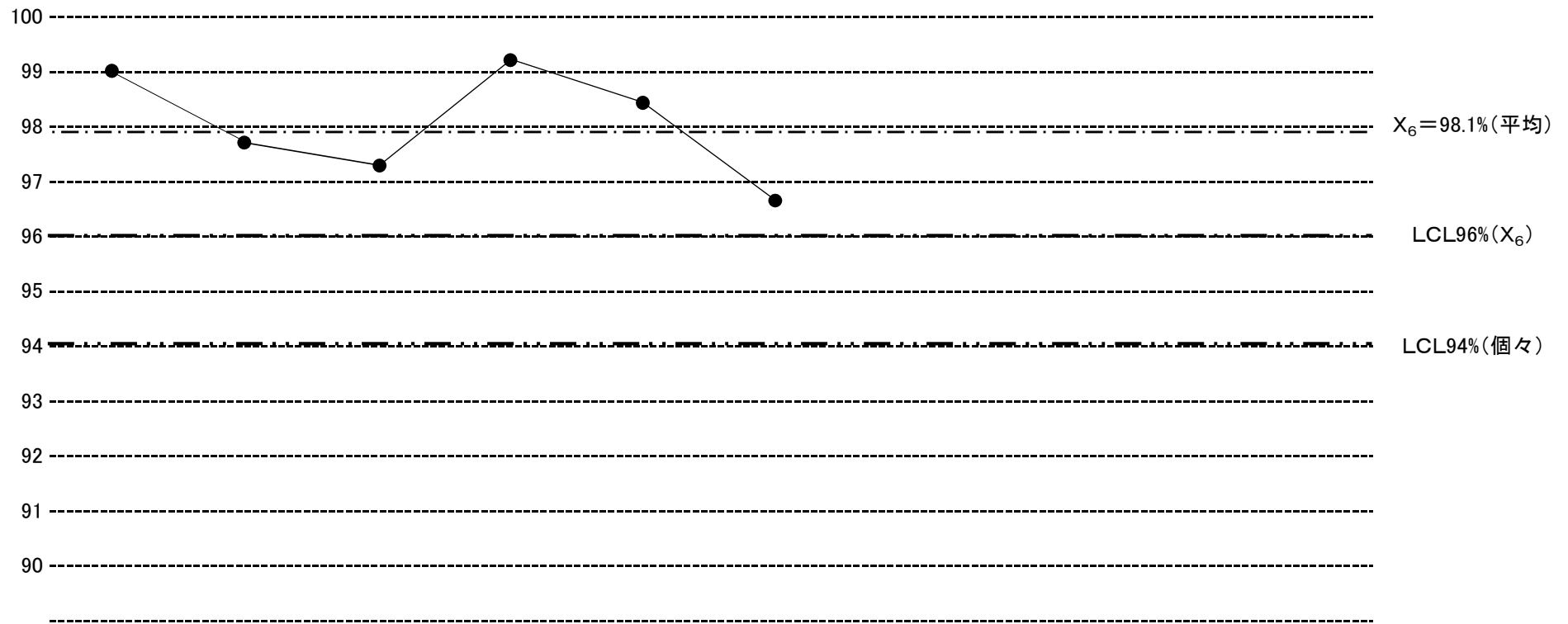


8 (3)-工 (例)

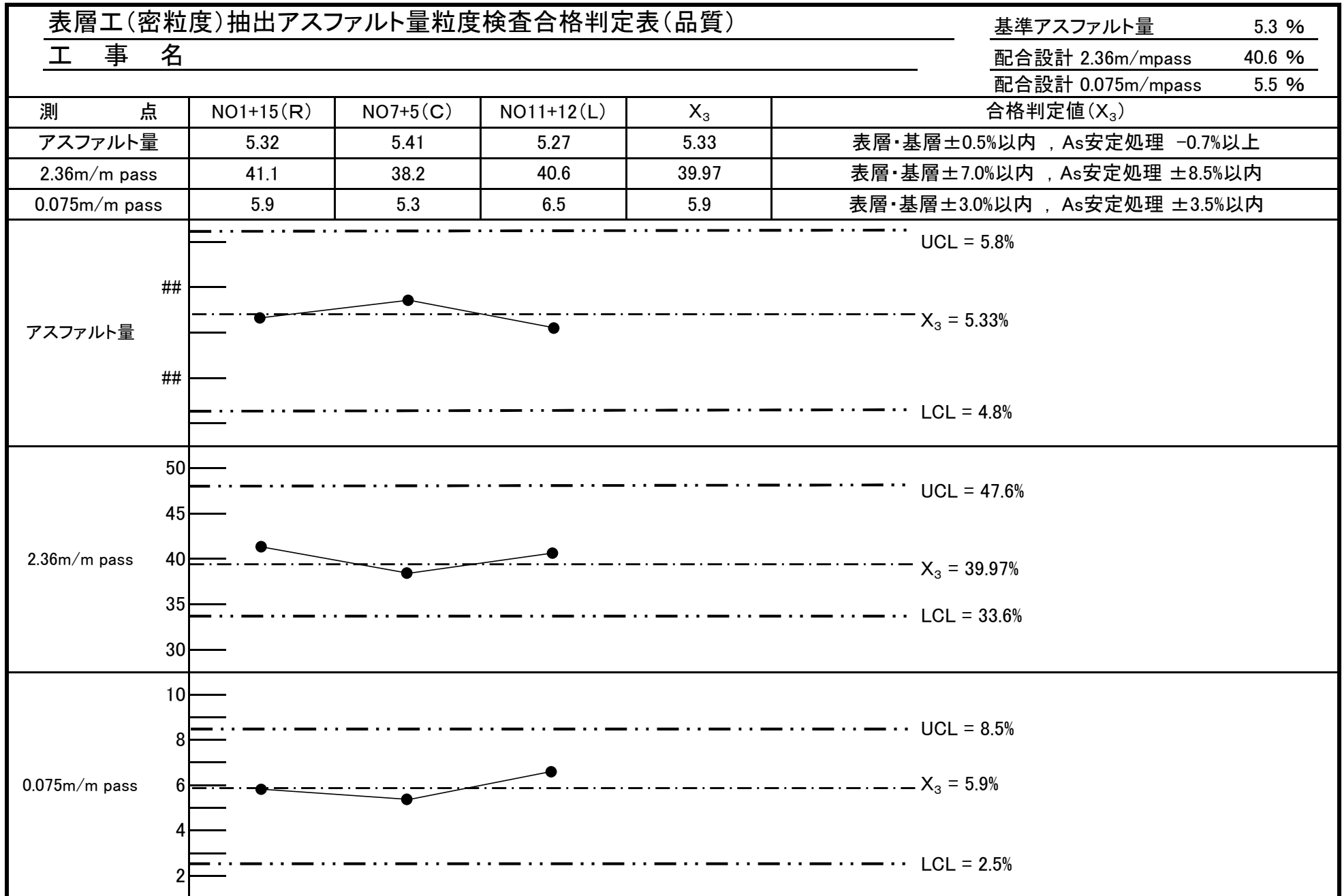
合材締固め度検査合格判定表(品質)

工事名	
工種名	基層工(20mm) t=5cm
基準密度	2.368
合格判定値	個々;94%以上, $X_{10} =$ %以上, $X_6 = 96\%$ 以上, $X_3 =$ %以上

測点	NO1+5(R)	NO3+15(L)	NO6+10(C)	NO9+5(R)	NO11+15(L)	NO14+10(C)					X_6
計測値	2.345	2.312	2.305	2.350	2.330	2.290					2.322
百分率	99.0	97.6	97.3	99.2	98.4	96.7					98.1



8 (3) - オ (例)



9 発生土・廃材関係書類について

(1) 指定処分

ア 建設発生土

(ア) 副申書

(イ) 料金納入通知書・還付金領収書

(ウ) 集計表(設計数量と搬入整理券の合計数量が確認できること。

また、合併、継続工事等は全体の数量が確認できること。)

(エ) 搬入整理券(半券)

(オ) 土砂検定試験表(1000m³以上)

※ 運搬経路図は施工計画書に添付すること。

イ 建設廃材 (As 殻、Co 殻、現場発生路盤材)

(ア) 廃材搬入利用申込み書

(イ) 集計表(設計数量と搬入数量が確認できること。

また、合併、継続工事等は全体の数量が確認できること。)

(ウ) 廃材検収伝票

※ 運搬経路図は施工計画書に添付すること。

(2) 確認処分

ア 建設発生土・産業廃棄物(泥水、その他)

(ア) 確認処分届

(イ) 搬出記録簿

(ウ) 搬入証明書(受入先が発行した搬入整理券等)

※ 運搬経路図は施工計画書に添付する。

泥 水・・・含水率が高く粒子が微細で泥状のもの。

廃ベントナイト泥水・泥状土・リバーサーキュレーション泥水等

イ 搬出記録簿

別添のとおり(参考)

搬出記録簿

工事名		合 計
種 別	発生土・産業廃棄物(泥水・その他())	t車 台
処分先		t車 台
請 負 人		現場代理人

番号	年月日	車両番号	車種(t)	番号	年月日	車両番号	車種(t)
				小 計		t車	台
						t車	台

※ この様式例は、確認処分用です。

10 工事月報について

<h2 style="margin: 0;">工 事 月 報</h2>			
平成 年 月 日			
〇〇区〇〇土木事務所			
監督員			
		請 負 人	〇〇建設(株)
		現場代理人	〇〇〇〇 印
次のとおり平成 年 月の施工状況を報告します。			
工 事 名			
契 約 年 月 日	年 月 日	完成期限	年 月 日
主 な 作 業 内 容			
記 事	(協議事項, 他所見等) 記入項目例 工事案内の配布、地元説明会の開催、関係機関への届出、関係機関・占用企業等との協議、工程会議・施工会議・安全協議会の開催、安全訓練の実施、安全パトロールの実施、災害防止の措置、監督員指示書の内容施工段取りの変更、試掘・試験施工、現場の立会い検査、夏期・年末年始の休止期間 等		

工 種 (追加工種)	契約数量 (指示数量)	単位	前月までの 出来高数量	今月の 出来高 数量	累計 出来高 数量	契約(指示)数量 に対する出来高 %
準備, 土工, 運搬工						
舗装切断工 t=5	950	m	975	0	975	102.6
舗装破碎工 バックホー直接掘削積込 t=40	2,600	m ²	800	1,200	2,000	76.9
(コンクリート構造物取壊工)	(60)	m ³	59	2	61	101.7
アスファルト取壊工	11	m ³	12	0	12	109.1
掘削工 機械	54	m ³	53	2	55	101.9
掘削工 人力	59	m ³	58	2	60	101.7
埋戻工 人力	34	m ³	35	1	36	102.9
残土運搬工 10t-16km	910	m ³	280	420	700	76.9
残土運搬工 2t-2km 10t-14km	79	m ³	76	4	80	101.3
廃材運搬工 AS 10t-14km	130	m ³	40	60	100	76.9
(廃材運搬工 CO 2t-2km 10t-18km)	(60)	m ³	59	2	61	101.7
廃材運搬工 AS 2t-2km 10t-12km	11	m ³	12	0	12	109.1
舗装工						
下層路盤工 C-40 t=20	2,600	m ²	800	1,200	2,000	76.9
上層路盤工 M-40 t=15	2,600	m ²	800	1,200	2,000	76.9
アスファルト舗装工 AS密 t=5	2,600	m ²	0	0	0	0.0
付帯工						
L形側溝工 タイプ9	850	m	848	0	848	99.8
L形側溝工 タイプ5	—	m	0	20	20	—
雨水樹蓋枠取換工	60	箇所	60	0	60	100.0
人孔調整工	15	箇所	0	0	0	0.0

(注) 工種の追加、契約数量の変更を指示した場合は、()書きで記載すること。

11 材料納入集計表について

(例)

材 料 名	規 格			単 位	使 用 数 量	備 考	
アスファルト合材	密 粒 度(13)			t	1,356.5		
工 事 名							
請 負 人				現場代理人 印			
納入年月日	納 入 量	累 計 数 量	備 考	納入年月日	納 入 量	累 計 数 量	備 考

- (1) 本表は、補助工事のみに添付し、伝票の前につける。
- (2) 現場代理人の印は、私印を使用すること。

1 2 検査に必要な図面について

- (1) 平面図 (工種を色分けしたもの)
- (2) 縦断図
- (3) 横断図
- (4) 構造図
- (5) 求積図
- (6) 仮設図
- (7) 配筋図
- (8) 展開図 (石積, 擁壁)

※ 検査に必要な図面は, 設計図書にある図面
を利用し(社印)は不要である。

- (9) 出来形図 (1, 2, 4, 8等の図面の設計値に朱書きしたもの)

※ 理論値のあるもの

- (10) 出来高図 (1, 5, 8等の図面と同じ)

※ 理論値のないもの

- (11) 管理位置図 (出来形管理, 品質管理基準による)
- (12) 施工順序図 (けた架設図, 急速施工等)
- (13) 保安施設設置図
- (14) その他

工事写真等 (工事写真撮影基準による)

工 事 台 帳 (道 路 工 事)

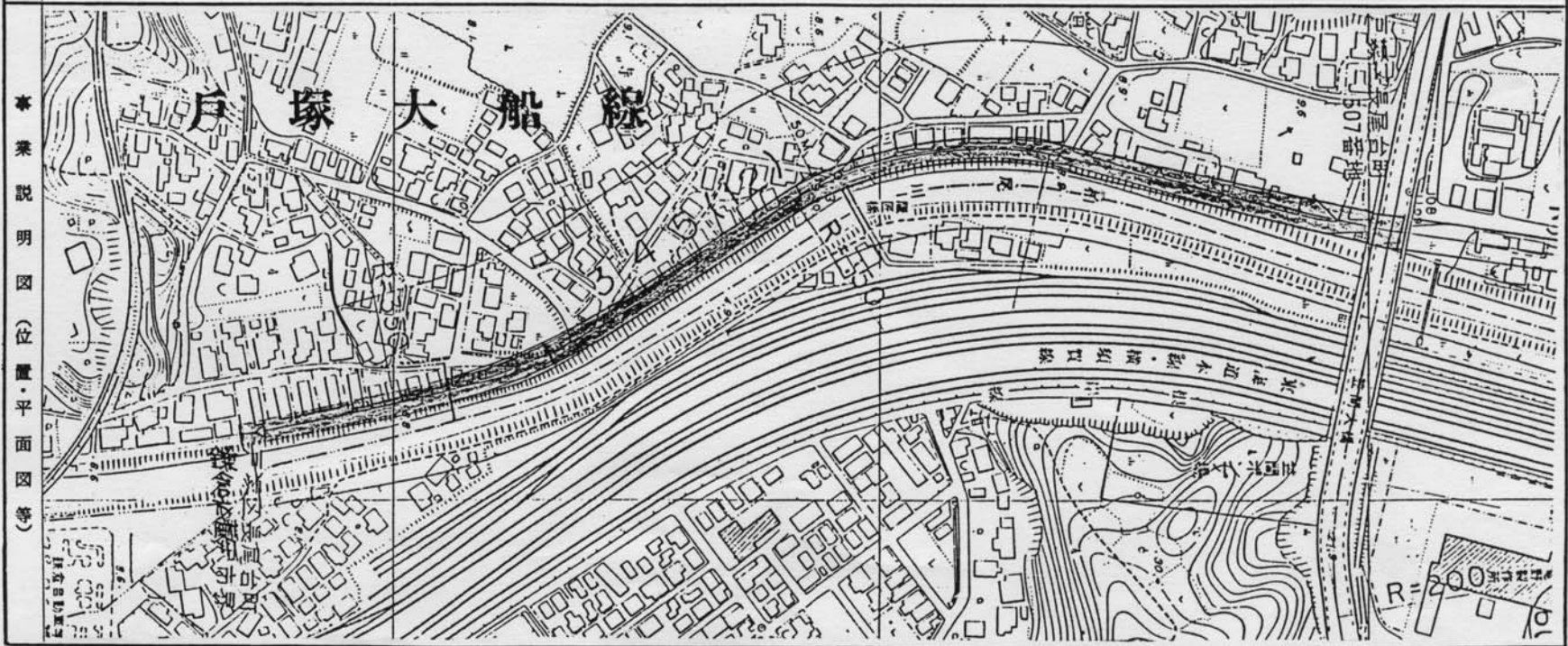
道路局建設部〇〇建設課

年度	S63 H 1線	番号	29													
路線名	3・4・5戸塚大船線			地区名	————			契約年月日	S. 63 8. 24		(中間)検査年月日	H. 1 3. 31		(土木)設計者	横浜 三郎	
事業区分	街路整備事業		工事名	都市計画道路 〇〇線街路整備工事 (その〇)				着手年月日	S. 63 8. 31		(最終)検査年月日	H. 1 7. 13		(電気)設計者	施設課 土木 幸治	
	市 単		工事箇所	栄区長尾台笠間町				(当初)竣工年月日	H. 1 3. 18		(土木)検査員	技術監理課 関内次郎		測量委託先	〇〇技研 (小林)	
			請負業者	〇△建設 (株)				(最終)竣工年月日	H. 1 6. 30		(電気)検査員	施設課 桜木 町夫		設計委託先	〇▽ コンサルタント (渡辺)	
	補助率		—	現場代理人	横浜 太郎				繰越の有無	⑦ 無		監督員	〇△土木 港町 一朗		土質調査委託先	" (")
設 計 諸 元								工 事 費				工 事 内 容 (最終 L. W. 主な工種)				
構造規格	4種1級 市道 (県道) 阿久和 鎌倉線			当初設計金額	32, 010, 000円				L=58. 5m (142. 5m) W=12m 土工 植栽工 車道舗装 照明工 歩道舗装 雑工 附帯工							
設計速度	60km/h			請負金額	31, 880, 000円											
曲線半径	277. 4m			最終変更金額	37, 575, 000円											
縦断勾配	0. 07%			繰越金額	10, 587, 900円											
横断勾配	車道 2% 歩道 2%			標 準 横 断 図 (舗装構成も必ず記入する事)												
設計交通量	65年推計 15, 800台/日 大型車1, 027台 区分C交通															
路床土C. B. R	1. 0% (設計C. B. R)															
路床土C. B. R	(改良後) % (材料) kg/m ²															
路床土C. B. R	(置換後) 6% (材料) 40~0 クラッシャーラン 70cm															
舗装厚	総厚 125cm (55cm) TA=28. 3															
照 明	光源 Hg灯 高さ 8m 配列 片側															
植 栽	単独樹 (連続樹) 高木 低木 オオムラサキツツジ															
排 水	河川側 民地側 Lo 鉛ビ管 (車道 歩道)															
(その他)	道路特別整備事業県道〇〇線道路 整備工事及び下水道工事と合併															

現況・完成・写真



事業説明図(位置・平面図等)



工事台帳 (構造物)

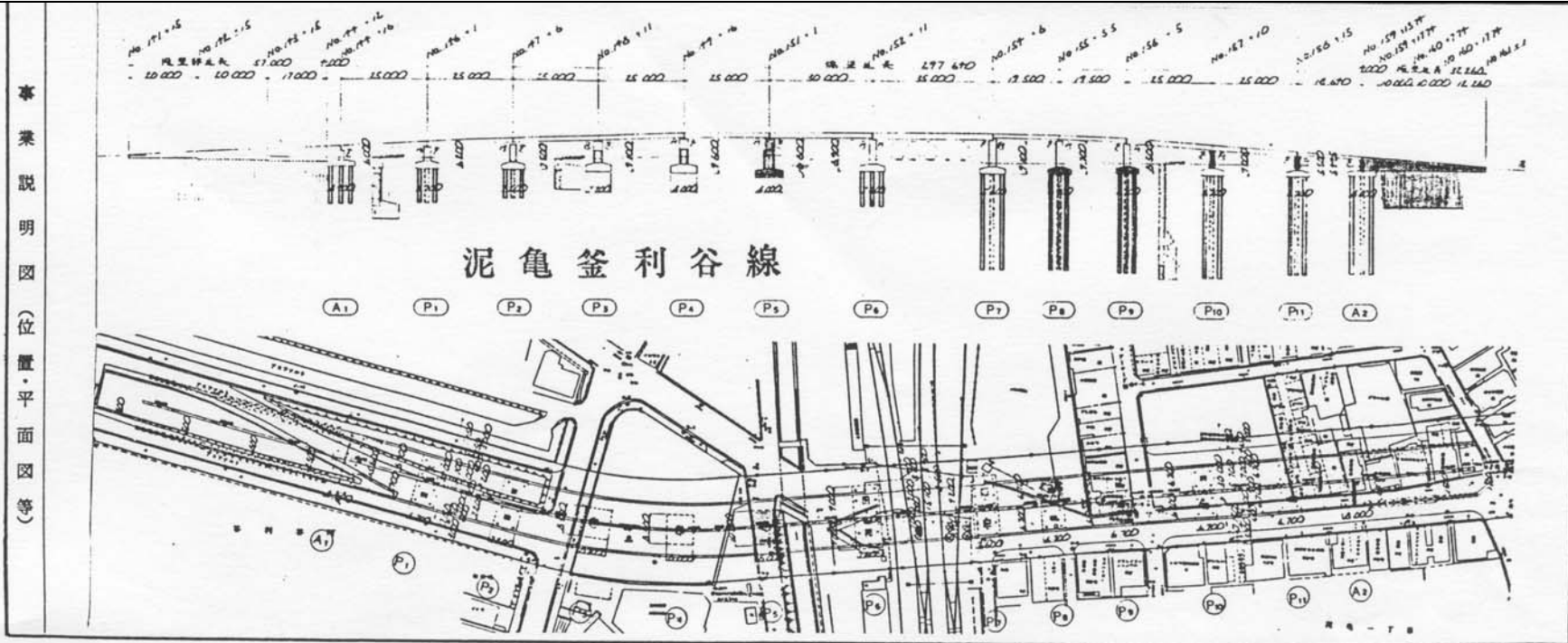
道路局建設部□□建設課

年度	S62 S63国	番号	9												
路線名	3・5・3泥亀釜利谷線			地区名	—————			契約年月日	S. 62 10. 13	(中間) 検査年月日	S63 6. 30	(土木) 設計者	楔形 健太		
街路整備事業 通常(立体) 補助率 5.25/10	工事名			都市計画道路○○○○線 立体交差(下部工)工事(その△)			着手年月日	S. 62 10. 20	(最終) 検査年月日	H. 1 3. 31	(電気) 設計者	施設課 伝奇兼佐			
	工事箇所			金沢区谷津町378番地先他1カ所			(当初) 竣功年月日	H. 1 3. 18	(土木) 検査員	技術監理課 丹藤兼佐	測量委託先	(株) □○測量 (山端 即良)			
	請負業者			○○建設(株) 横浜支店			(最終) 竣功年月日	H. 1 3. 18	(電気) 検査員	—————	設計委託先	(株) □△エンジニアリング (弘蔵 雪溪)			
	現場代理人			世耕 甘利			繰越の有無	⑦ 無	監督員	△△土木 現場 寛徳	土質調査委託先	恕室帖佐(株)			
設計諸元				工事費				工事内容(最終 L. W. 主な工種)							
構造規格	4種1級 (市道) 県道			当初設計金額	77,020,000円			P ₅ 橋脚工 P ₈ 橋脚工(下り線)(フーチングまで) P ₉ 橋脚工(上り線)(") P ₁₀ 橋脚工(上り線)(躯体工) P ₁₁ 橋脚工(上り線)(") A ₂ 橋台工(上り線)(" , 擁壁)							
設計速度	60Km/h			請負金額	76,600,000円										
設計交通量	65年推計 34,200台/日 大型車1,162台 区分C交通			最終変更金額	78,830,000円										
縦断勾配	5.7%			繰越金額	(62年度割のうち) 6,000,000円										
横断勾配	車道 2% 歩道 2%			標準横断図											
設計荷重	TL-20														
設計震度	Kh=0.22														
上部工 構造形式	PC ポストテンション 11径間 単純T桁 プレテンション 1径間 L=470m W=18.5m														
示方書	道路橋示方書 I, III, V														
下部工 構造形式	T形橋脚 リバース 杭8.5~30m 130本														
示方書	道路橋示方書 I, IV, V														
照明形式規格灯数	HF=400W H=7.0m 14灯														
(その他)	継続工事 62年度設定工事国債 62年度割 40,000,000 63年度割 38,830,000 計 78,830,000														

現況・完成・写真



事業説明図 (位置・平面図等)



土木工事検査書類作成マニュアル

平成 25 年 4 月 制定

平成 30 年 4 月 改定

編集・事務局
横浜市道路局計画調整部
技術監理課